

三重県総合博物館第33回企画展

親鸞と 高田本山

専修寺国宝からひろがる世界

2023年
4月22日(土)
▼
6月18日(日)

三重県指定有形文化財／親鸞聖人坐像（らんしんしょうにんざぞう）／専修寺（せんしゅうじ）蔵



背景は国宝／三帖和讃（さんじょうわさん）《部分》／専修寺蔵
題字は国宝／西方指南抄（さいほうしなんしやう）／専修寺蔵

親鸞

観覧時間
午前9時～午後5時（最終入場は午後4時30分まで）

休館日
毎週月曜日
4月24日(月)、5月1日(月)、8日(月)、15日(月)、
22日(月)、29日(月)、6月5日(月)、12日(月)

主 催：三重県総合博物館
特別協力：真宗高田派本山専修寺、専修寺宝物館
協 力：近畿日本鉄道株式会社
後 援：津市教育委員会、鈴鹿市教育委員会、
安城市教育委員会、岡崎市教育委員会、
真岡市教育委員会、三重県博物館協会、
歴史街道推進協議会
助 成：公益財団法人 岡田文化財団

親鸞と 高田本山

専修寺 国宝からひろがる世界



重要文化財 真佛筆親浄土真実教行証文類／
教行信証(高田本)／鎌倉時代(通期展示・冊書あり)



彰見寺普門著 教行信証師資発覆抄(しほっふしょう)／
江戸時代(通期展示)

令和5年(2023)は親鸞生誕850年の年にあたります。また、令和6年(2024)は親鸞が主著『顕浄土真実教行証文類』をあらわしてから800年の年にあたるとされます。その記念の年に、高田本山(真宗高田派本山専修寺、三重県津市)所蔵の国宝西方指南抄(さいほうしなんしやう)・国宝三帖和讃(さんじょうわさん)、重要文化財の親鸞聖人消息(しょうそく)・専修寺聖教(しょうぎやう)を軸に、日本の文化史・思想上重要な位置を占める親鸞を紹介します。晩年京にいた親鸞と遠く離れた関東の門弟たちの交流を、親鸞自筆の手紙や典籍からひもときます。また、それらの宝物を伝える高田本山の歴史を、重要文化財専修寺文書を中心に紹介します。

高田派の 顕浄土真実教行証文類

親鸞の主著

高田本山の他の写本、
中山寺本、寿福院本、
高田派の注釈書を
あわせて公開。



顕浄土真実教行証文類(中山寺本)／中山寺蔵／
室町時代(通期展示)※化身土巻末以外を展示

親鸞の師と門弟たち

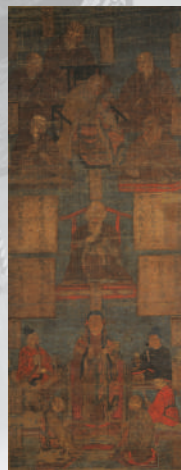
真宗の教えの流れを描いた
絵画にみる師と門弟



鈴鹿市指定有形文化財
聖徳太子及び真宗先徳連坐像／
高山寺蔵／南北朝～室町時代(前期展示)



津市指定有形文化財
聖徳太子及び浄土高僧連坐像／
青巖寺蔵／室町時代(後期展示)



安城市指定有形文化財
真宗十祖像／西蓮寺蔵／
南北朝時代(前期展示)

観覧料金	親鸞と高田本山展	セット券	基本展示
一般	800円(640円)	1,050円(840円)	520円(410円)
学生	480円(380円)	630円(500円)	310円(240円)
高校生以下	無 料	無 料	無 料

年間バスポート(特別展を除くすべての展示フリーパス) 一般 1,670円／学生 1,040円

() は前売り券、20名以上の団体料金。障害者手帳等をお持ちの方とその付き添いの方1名様は無料。毎月第3日曜日は家庭の日で、団体料金でご覧いただけます。



近鉄駅営業所にて、前売り券は4月1日(土)から21日(金)まで、当日券は4月22日(土)から6月18日(日)まで発売予定。

次回の展覧会は
特別展 高畑 勲展
日本のアニメーションに遺したもの
2023年7月8日(土)～9月18日(月・祝)

講 演 会

5月14日「中世における「下野高田専修寺」－東国門徒の成長のなかで－」
(日) 講師：永村 真氏 (日本女子大学名誉教授)

6月 3日「国宝『西方指南抄』の世界－親鸞聖人が残したかったもの－」
(土) 講師：清水谷 正尊氏 (高田短期大学非常勤講師・真宗高田派鑑学)

6月11日「親鸞聖人と真佛上人・顕智上人」
(日) 講師：山田 雅教氏 (高田学会会員・浄土真宗本願寺派西勝寺住職)

6月17日「知られざる親鸞の幼少時代－出家得度以前の修学環境をめぐって－」
(土) 講師：津田 徹英氏 (青山学院大学文学部教授)

【時間】各回午後1時30分～3時 【会場】三重県総合博物館3階 レクチャールーム
【定員】54名(予定)※変更する場合あり ※応募者多数の場合は抽選となります。
※講演会終了後、30分程度、講演会参加者に、当館学芸員が関係する展示資料の解説を、同じ会場で実施します(希望者のみ)。
【参加方法】
開催日の3週間前までに電子申請または往復はがきにてお申し込みください。
1通で最大4名様まで申込み可。代表者の氏名、住所、当日連絡が取れる電話番号、参加者全員の氏名を記入してご応募ください。
○電子申請アドレス：
https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/84927046739.htm
○往復はがき宛先：〒514-0061 三重県津市一身田上津部田3060
三重県総合博物館「親鸞と高田本山」○月○日講演会(開催日を記入)係

ミニレクチャー 学芸員が展示の見どころを解説

4月23日(日)「仏像入門－親鸞と高田本山によせて－」
5月 7日(日)「信長・秀吉・家康－天下人の文書を読む－」
5月20日(土)「北畠・長野・蒲生－三重の戦国武将の文書を読む－」
5月27日(土)「聖徳太子の造形入門」
5月28日(日)「重要文化財 親鸞聖人消息を読んでみる」
6月18日(日)「国宝 三帖和讃を読んでみる」

【時間】各回午後1時30分～3時 【会場】三重県総合博物館3階 レクチャールーム
【定員】54名(予定)※変更する場合あり ※当日午後1時から受付。先着順。

参加無料

事前申込み

参加無料

当日受付

新型コロナウイルス感染症の拡大等の状況によっては催しの内容等変更になる場合がございますのでご了承ください。最新の情報については当館HP、Twitter、Facebookなどをご覧ください。

MieMu 三重県総合博物館

み え む MieMu: Mie Prefectural Museum, Japan

三重県津市一身田上津部田3060(三重県総合文化センター向かい) 〒514-0061
tel 059-228-2283(代表) fax 059-229-8310 mail MieMu@pref.mie.lg.jp
web https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/
twitter @mie_pref_museum
facebook https://www.facebook.com/mie.pref.museum

観覧時間 午前9時～午後5時(最終入場は午後4時30分まで)

休館日 4月24日(月)
5月1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)
6月5日(月)、12日(月)

アクセス 公共交通機関：津駅(近鉄名古屋線、JR紀勢本線、伊勢鉄道)西口下車、津駅西口から三重交通バス(「総合文化センター行き」「夢が丘団地行き」)約5分、「総合文化センター前」下車／徒歩：津駅西口から約25分／自動車：伊勢自動車道「津IC」から約10分、「芸濃IC」から約20分



南无阿弥陀佛

親鸞筆

親鸞の雄渾な筆さばき

師を慕いそれを書写する直門弟の筆さばき

文字は国宝三帖和讃他より

不退ノミツ井ノミツ

真佛筆

孫陀成佛ノコノカミ

願智筆



願智上人坐像／如来寺蔵(通期展示)



重要文化財 真佛坐像／本寺専修寺蔵／室町時代(通期展示)



三重県指定有形文化財 親鸞聖人坐像／鎌倉時代(通期展示)

国宝西方指南抄、国宝三帖和讃ともに、親鸞と門弟らの筆さばきを合わせて見ることができる。真佛は親鸞より先に没していることから、真佛筆の聖教は親鸞在世中のものと知られる。



下末冊

黒田の聖人へ遣わす書 伊賀国の荘園黒田荘の聖に宛てたもの。



下本冊

十一箇条問答 第一箇条では浄土宗が拠って立つ所を經典に基づいて記す。



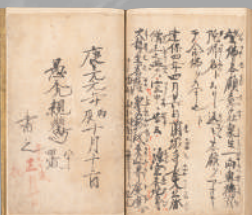
中末冊

起請没後二箇条事 法然が自身の没後の規範を門弟に示したものの。



中本冊

法然聖人御夢想記 夢で半身金色の善導に会ったという法然の話を取る。



上末冊

園城寺の僧が法然の本地は大勢至菩薩という夢を見た話を取る。

上本冊

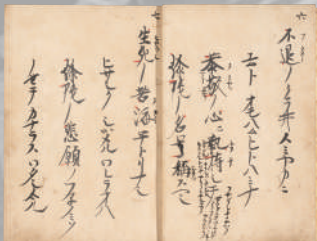
法然聖人御說法事 法然の説法を取る。
※西方指南抄では法然「聖人」と記される。

親鸞自筆の 法然の言行録

親鸞の師で浄土宗の祖法然にまつわる最古の言行録、全6冊で親鸞自筆。浄土宗、浄土真宗と宗派のはっきりした現代では位置づけがしにくい、親鸞自ら筆をとったことから、親鸞は師法然のことを門弟たちに伝えようとし、師を慕う親鸞の姿を門弟たちも理解しようとしたと容易に想像できる。浄土真宗でなぜ法然かという疑問には、門弟たちの目の前にいたのは崇拜対象ともなる没後の親鸞ではなく師法然を尊重する生きた師親鸞だったからだと答えたい。合わせて国宝に指定されている門弟の真佛、願智が書写した直門弟本も同時に公開。

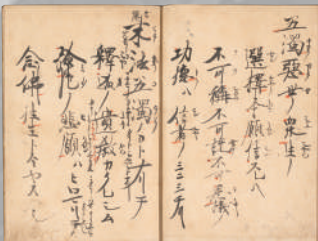
浄土和讃

右が雄渾な親鸞筆部分で、左が真佛筆部分。



浄土高僧和讃

不退ノクライスマカニで始まる有名な和讃。真佛筆部分。



正像末法和讃

五濁惡世ノ衆生ノで始まる和讃。親鸞筆部分。

親鸞自筆の 7通の手紙

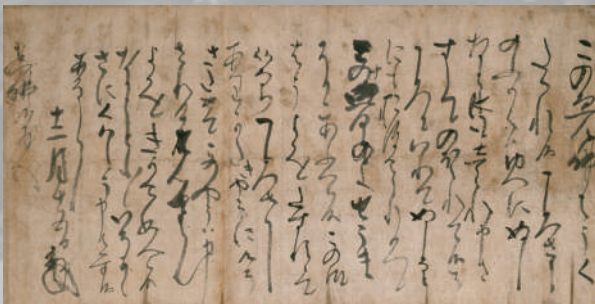
親鸞の手紙は約40通が知られるが大部分は写しで、自筆の手紙は12通が伝わるのみ。高田本山には、重要文化財親鸞聖人消息として12通のうち7通が伝わる。高田とは、栃木県真岡（もおか）市の地名で、専修寺は元はそこにあった。これらの手紙は、京都に帰った親鸞から、関東で教えを受けた門弟たちに宛てたものである。

浄信房宛て御返事

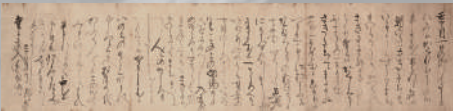
(十月二十一日付)



真佛房宛て



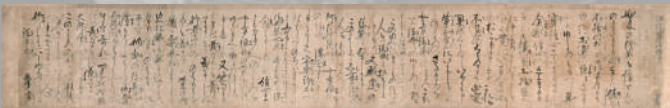
高田入道宛て
御返事



慶信上書
加筆御返事



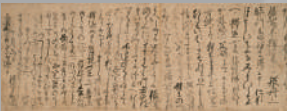
浄信房宛て
御返事
(二月二十五日付)



覚信房宛て
御返事



しのぶの御房
宛て御返事



高田派の聖徳太子



津市指定有形文化財
聖徳太子絵伝／上宮寺蔵／室町時代(前期展示)
※画像は1幅目、前期後期にわけ全6幅公開



愛知県指定有形文化財
太子講讃孝養の図／満性寺蔵／室町時代(後期展示)

太子信仰の様相を、高田派寺院の文化財から紹介

重要文化財

専修寺文書

信長・秀吉・家康の文書も一挙公開(通期展示)

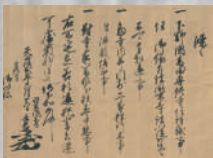


織田信長朱印状

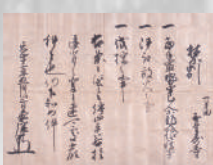


徳川家康禁制(木製高札)

高田門徒らは専修寺、そして専修寺門跡として結束し、今に親鸞とその門弟たちの貴重な資料を守り伝えた。その歴史が垣間見える文書群。天下人らの文書も残る。



羽柴秀吉禁制



徳川家康禁制

国宝

親鸞筆
西方指南抄

自筆6冊

全点公開

5/30火
▼
6/11日

国宝

親鸞・真佛筆
三帖和讃

3冊

全点公開

6/13火
▼
6/18日

重要文化財

親鸞筆
親鸞聖人消息

自筆7通

全点公開

5/23火
▼
5/28日

重要文化財

親鸞伝絵
(善信上人絵詞伝)

4/22土
▼
5/21日

第二巻前半 公開
第三巻全丁

5/23火
▼
6/18日

第二巻後半 公開
第四巻全丁